

R I 第 2 7 6 0 地区東日本大震災プロジェクト委員会の活動

R I 第 2760 地区東日本大震災プロジェクト委員会

2011 年秋、私たち 2760 地区（愛知県）では当時の松前ガバナーの号令のもと、深谷地区 R 財団委員長を中心に震災支援委員会を立ち上げる事となり、今の鈴木委員長をはじめとする数名が召集され「何ができるか？」について協議しました。結果、委員会は活動 3 年間の期間限定の特別委員会とし、当初は『被災地からの支援要請情報を収集し、地区内 83 クラブに発信する・地区内クラブの支援事業を収集し、データベース化する』を目的とし活動することにしました。

しかしながら、目的は決めたが何からするのか皆目見当がつかず、藁にもすがる思いで 2012 年 4 月、2520 地区復興支援委員会にご連絡して仙台 R C 様の迷惑も顧みずお邪魔し、当時の地区復興支援特別委員会、常盤副委員長以下委員の方数名と情報交換をさせて頂きました。それがきっかけで支援要請情報は、2520 地区からは常盤様を通じて仙台 R C 様から、2530 地区からは平井地区 R 財団委員長から頂けるようになりました。

当委員会は 2013 年 4 月には気仙沼を訪問し、気仙沼 R C 様から当時の話をお聞きしました。翌日は気仙沼から仙台空港まで海岸沿いを陸路で視察し、途中女川町では R I より「超我の奉仕賞」を受賞した当委員会のメンバーでもある石川会員の計らいで、うどんの炊き出しも体験しました。

また、2013 年 10 月には当地区の田中ガバナー、榊原地区幹事にもご同行願ひ、南三陸町から名取まで視察をしました。女川町ではガバナーにも、うどんの炊き出しを体験して頂きました。仙台では松良ガバナーとも面談し、仙台南 R C 例会出席後には、当時の菅原復興支援特別委員会委員長、常盤副委員長らと意見交換をし、大変貴重な話と資料を頂きました。このころから、委員会の目的に「来るであろう東南海沖地震が起きた時に R C は何ができるのか？何をすべきか？」を検討することが加わりました。今年度中に近藤ガバナーに答申を提出する予定です。

そして 2014 年、仙台 R C 様のご協力のもと 2760 地区補助金事業を実施出来る事となり、8 月に「南三陸町立志津川中学校へ時計塔を！」を実施しました。また、11 月には、名古屋栄 R C のご協力をいただき、「合同公開例会…3.11…あの日を忘れない！」を実施し、近い将来起こりうるであろう「東南海沖地震」について考えてみたいと思います。